

発達心理学

2018～

科目コード

FD3543



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	中村 修

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 136「生涯発達心理学」（科目コード：FD2502・FD2563、4単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょう？さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょう？この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくこととなります。発達心理学は「生涯発達心理学」と呼称されることがありますが、この名称に示されるように、発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるのが現在の通例です。では生涯という視点で人を理解するとはどのようなことでしょうか？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。

■到達目標

- 1) 発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。
- 2) 幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。
- 3) 発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。
- 4) 発達障害等非定型発達についての基礎的な事項を説明できる。

■教科書

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学－生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2014年

(最近の教科書変更時期) 2017年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を必ず持参してください。旧教科書の方も旧教科書を必ずお持ちください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅰ ライフサイクル』ミネルヴァ書房、1994年 *旧教科書
- 2) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅱ 機能の発達』ミネルヴァ書房、1994年
- 3) 本郷一夫編『シートブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』建帛社、2007年
- 4) 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学（第2版）』ミネルヴァ書房、2009年
- 5) 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編『ガイドライン 生涯発達心理学（第2版）』ナカニシヤ出版、2012年
- 6) 岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013年
- 7) 高橋一公・中川佳子編著『生涯発達心理学15講』北大路書房、2014年
- 8) 鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ著『生涯発達心理学 認知・対人関係・自己から読み解く』有斐閣、2016年
- 9) 開一夫・斎藤慈子編著『ベーシック発達心理学』東京大学出版会、2018年
- 10) 林創編著『発達心理学 公認心理師スタンダードテキストシリーズ12』ミネルヴァ書房、2019年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

発達という概念はつかみやすいようでとらえづらいかもかもしれません。スクーリングでは、発達という概念のそもそもの部分の説明と、生涯を区分した発達期ごとの説明を行っていきますが、区分してあると言っても一人の人間が生涯にわたって発達していくという「つながり」はあるわけです。前後の時期のつながりもあれば「積み重なっていくもの」もあるでしょう。せっかくのスクーリングの機会ですから、教科書のページ通りではなくあちこち行ったり来たりしながら講義することで、「区分しつつ、つなげて理解する」という背反したことを目指していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達するとはどういうことか、何が発達をもたらすのか	発達とはどういうことを意味するのかについて、昔の発達心理学と現在の生涯発達心理学での考え方の違いを明確にする。また、発達の要因として遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。
2	乳幼児期①：乳児－養育者間コミュニケーションと愛着の発達	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解を行う。特に愛着の発達について、愛着形成の過程及び愛着の個人差について理解する。
3	乳幼児期②：認知機能の発達	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論に基づいて、特に幼児期の認知発達について理解する。
4	青年期の発達：自己認知とアイデンティティ	自己の発達について、エリクソン及びマーシャの言説に基づき、アイデンティティと何かを理解する。
5	成人期：キャリア発達	特にキャリア発達という観点からの成人期の発達を理解する。特に、①アイデンティティの再体制化とは何か、②世代性とは何かを理解する。
6	老年期：サクセスフル・エイジングとは	老年期における認知機能の変化及び補償、パーソナリティの発達、サクセスフル・エイジングの条件について理解する。
7	発達のつまずき	発達障害とその臨床・支援について概略的な理解を行う。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングの講義内容や講義の進め方はここに記載のものと異なります。申込時に『With』でご確認ください。

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに、板書をしながら進めます。具体的な事例を提示する際にはDVDを用います。

■スクーリング 評価基準

特に到達目標記載内容についての理解を問います。スクーリング中に学んだことを活用して答えなければならない問題を出題します（ノート、教科書、配布資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリング講義内容として示した9回は、基本的に教科書の章単位でまとまりが作られています（複数章にまたがる場合があります）。どの回がどの章なのか事前に対応させる作業を行い、それぞれの回のキーワードをチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか① (序章、1章-2)	生涯発達はどういうことと考えられているか キーワード：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	発達とは何か、現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。
2	発達するとはどういうことか② (1章-3、4、5)	発達は何によってもたらされるか キーワード：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、Bronfenbrenner、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
3	ピアジェの発達理論 (3章-1)	ピアジェの発達理論について理解する キーワード：ピアジェ、スキーマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
4	乳児期①：アタッチメントの発達 (4章-3、4)	アタッチメントの発達の理解 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何か ②アタッチメントの発達の流れ ③アタッチメントの個人差について理解する。
5	幼児期①：言葉と表象 (5章-1、2、3)	言葉の発達の基盤についての理解 キーワード：表象、ごっこ遊び、喃語、共同注視、初語、統語、外言、内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。
6	幼児期②：自己の発達 (6章-1、2、3、4)	自己の発達の理解、特に自己の芽生えについて キーワード：自己感覚、自己、主体、客体、第一次反抗期、自己主張期、概念的自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解する。 ②自己にもさまざまな側面があることを理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について理解する。
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論 (7章-1、2)	社会性の発達の理解、特に他者の意図の理解について キーワード：心の理論、誤信念課題、うそ、道徳的判断、コールバーグ、共感性、向社会的行動、実行機能	①心の理論とはどういうことか理解する。 ②道徳的判断の発達について理解する。 ③共感性の発達について理解する。
8	児童期①：子どもと学校 (8章-1)	児童期の認知機能の発達、特に脱中心化という観点から キーワード：前操作期、自己中心性(中心化)、保存課題、3つ山課題、脱中心化、具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき、児童期の思考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	青年期の発達 ①：自己認知 (9章-1、2)	青年期の発達の理解、特に青年期初期の自己理解の変化という観点から キーワード：第二次性徴、思春期サポート、自己理解、自我体験、時間的展望、青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴について理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否定的感情の高まりについて理解する。
10	青年期の発達 ②：友人関係 (9章-3、4)	青年期の発達の理解、特に同年代他者との関係から キーワード：友人関係、関係性攻撃、恋愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。
11	青年期から成人期へ①：アイデンティティの発達 (10章-1、2)	青年期の発達の理解、特にアイデンティティの形成という観点から キーワード：エリクソン、アイデンティティ、モラトリウム、マーシャ、アイデンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき、アイデンティティと何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ステータス論」に基づき、アイデンティティの形成プロセスについて理解する。 ③成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
12	成人期中期から後期①：世代性、職業・キャリア発達 (11章-1、2)	成人期中期以降の発達についての理解、特にキャリア発達の観点から キーワード：世代性、アイデンティティ再体制化、メンタリング	成人期中期以降の発達の变化について、 ①アイデンティティの再体制化とは何か ②世代性とは何かを理解する。
13	老年期①：老いの意味と認知機能の変化 (12章-1、2)	老年期の発達の理解、特に認知機能について キーワード：エイジズム、流動性知能、結晶性知能、超高齢期、補償、最適化、知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達の变化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。
14	発達のみならず① (13章-1、2)	発達のみならず、特に発達障害の理解 キーワード：発達障害、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症(学習障害)、個別支援、環境調整、二次障害	①発達のみならずとは何かについて理解する。 ②発達障害について理解し、基礎的な理解を図る。 ③発達障害の臨床・支援について理解する。
15	1回目から14回目までの振り返り	生涯にわたる発達の变化のまとめ	①幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ②幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「認知機能」「自己」「愛着」「社会性」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください (Web解答可)。
2 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者—子相互作用」の重要性についてまとめよ。その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という2つの側面からまとめること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書1つをとってもある事柄が説明されている箇所は1か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

この課題は「4章」「5章」が中心となりますが、「2章3」「13章3」なども踏まえる必要があります。「愛着の発達」については、ボウルヴィが提唱したアタッチメント概念の説明が中心になります。それに加えて、「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己」「養育者と子の安定した関係をベースにして広がる対人関係」「養育者—子の不安定な関係が生み出す問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。また、ボウルヴィの考えだけでなく、エリクソンが乳児期の心理社会的危機として設定した「基本的信頼感対不信」を説明に取り入れて発達の最初期の養育者—子相互作用の重要性を強調するのも1つの手です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたいうえで、関連する部分についても触れてください。「言語の発達」については、「5章2」から言語発達の基盤として特に養育者がどのような役割を果たすのかについて説明してください。言語発達と関わる様々な側面の中で「養育者—子相互作用」という課題テーマに関わる部分をうまくまとめることができるかがポイントとなります。

なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者—子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

■レポート 評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読

んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。
- 3) 学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におりこむことができると評価が高まります。